

学部優秀部門奨励金

(文学部 2021年3月卒業)

学び続けた大学生活

4年前の私は子どもだったなあ。卒業論文を書き終え、大学生活を振り返った時に一番初めに思ったことである。そう感じたのは間違いではないと思う。大学での学びの中で様々なことを経験し、人間として大きく成長できたと思っているからだ。

歴史文化学科での学びでは、1つの視点から見えたことだけで物事を決めつけることの危うさを学べた。また、物事を疑いの目を持って分析することの大切さも学べた。教科書の内容の再検討を行う授業や史料を使った調べ学習、通説を別角度から検討する授業から、これらのことを少しずつ学んでいった。日本史・西洋史・アジア史・地理・民俗学という様々なジャンルの授業を受けたことも学びを深められた要因だと思う。そして、学科での学びの集大成として、卒業論文で関ヶ原合戦について考えた。武士ではなく、公家や僧侶といった立場から見れば違うものが見えてくることを論じた。社会に出ても、様々な視点から物事を分析することを心掛けていきたい。

学芸員課程の学びから、理想通りに物事を進める難しさを知った。座学の授業では、博物館運営の理想形を学んだ。しかし、博物館実習に行くと、必ずしも理想通りに博物館が運営されていない現状を目の当たりにした。だが一方で、今の環境で博物館運営の理想に近づけるよう努力する学芸員の方々の姿もあった。学芸員課程の学びで、博物館について知ることももちろんできた。しかし、学びの集大成である実習に行くことによって、理想通りに物事を進める難しさを知れた。また、理想に少しでも近づけるように努力することが今後社会に出るにあたって必要だということを学芸員の方々と接することから学べた。私は博物館関係の職には就けなかったが、学芸員課程で学んだことは学芸員以外の職に就いても活かせるものだった。しっかりと今後の人生に活かしていきたい。

中国語の学習から、大学生のうち日本以外の文化に触れておくことの重要性を学べた。1回生の必修授業以降も継続して中国語を勉強した。中国語について学べたことはもちろんだが、授業を通して中国の現状や文化について学ぶことができた。中国の現状は私が思っていたよりも進んでいて、文化は私が思っていたよりも面白かった。日本にいと日本が他国よりも進んでいると感じてしまう。だが、実際はそうではないことを授業から知れた。就職先は外国人の同僚がいるし、海外でも事業を展開している会社である。大学生のうち日本以外の文化に触れていて本当によかった。コロナウイルスの影響で、大学生の間に中国に行くことができなかったことは後悔している。

このようなことを大学での学びから得ることができた。もちろん、古文書読解サークルや遺跡巡検サークルの活動、学園祭に模擬店を出店した経験からも学んだことはあった。だが、私は常に大学生活の中心は学ぶことと考えていた。だから、学びからたくさん得られたし、甲南100周年記念荣誉特待生に選ばれたのだと思う。社会に出ても勉強する機会は多くある。社会人生活の中心も学ぶことと考え、これからも積極的に学びを深めていきたい。